「市民で創る市民活動計画」提言

令 和 3 年 9 月 2 9 日

市 民 協 働 推 進 会 議

１　はじめに

令和元年８月より、私たち第８期市民協働推進会議のチャレンジがスタートしました。今期の委員には、自治会役員や元公民館長、NPO 関係者、鯖江市外からの転入者など、鯖江市に思い入れのある多種多様な方々が集結しました。そのような中で、各自が職場や地域、また、家庭の中で様々な思いを持って生活をしています。

鯖江市は、県内きっての住みよい自治体として人口が増加し続けました。しかし、時代の変化とともに家庭構造も大きく様変わりし、核家族や少子高齢化、また、高齢者世帯や独居、空き家が急増しています。地域では、既存住民と若者転入者との意見の相違やご近所との関わりの希薄化、集まりやイベント等への参画者の減少、自治組織運営の後継者問題などが顕著化しています。このような状態は、小さなコミュニティーのみならず市全体にも広がりつつあり、このままでは、できないこと・守れないものが増えてしまい、心と心のつながり、支え合いのつながりがなくなってしまいます。

住民誰しも、自分たちの住む地域を少しでも良くしたいという共通の思いがあります。「税金を払っているのだから行政がすべし」と他人事として捉えるのではなく、市民自らが主体となり参加・参画できるまちづくりを目指さなければなりません。そこで、市民協働推進会議としては、委員それぞれの立場から意見を出し合い議論し、この提言をまとめました。

２　現状分析

かねてより、まちづくりに対する市民の意識は高く、世界体操鯖江大会（1995 年）では約 3 万人の市民ボランティアが携わったことで有名です。2010 年には「鯖江市民主役条例」が施行され、「市民主役」はさらにその裾野を広げています。「鯖江市役所 JK 課」の活躍や、市民団体などによる「提案型市民主役事業」といった取り組みはその好例でしょう。

ただ、人口減少時代の到来に伴う社会経済の縮小や、それに連鎖する税収入は避けて通れない課題です。また、高齢化社会の進展に伴う社会保障費の増大等により、行政サービスが縮小せざるを得なくなることも直視しなければなりません。

３　「市民活動計画」とは？

・なぜ市民主役と「市民活動計画」が必要なのか？

こうした課題に立ち向かっていくためには、市民と行政とが協働していくことが欠かせません。行政は公益的視点から資源の分配や後方支援を担います。一方、地域組織や市民団体などは地域に根差した専門的・効率的な活動が期待できます。互いの得意分野や特性を生

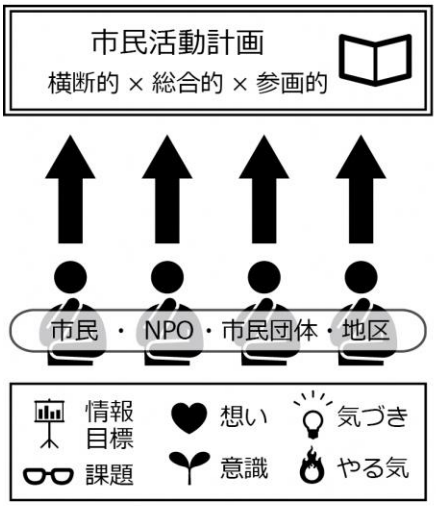
かすことで大きな力が生まれ、鯖江を元気にするエネルギーに変わるのです。

そのために必要なのが「市民活動計画」です。従来、別々の分野で活動していた市民の活動を総合的に、しかも多くのステークホルダー（利害関係者）が情報を共有して参画的に行動するためのグランドデザインが必要であり、そのデザインを私たちは「市民活動計画」と名付けました。

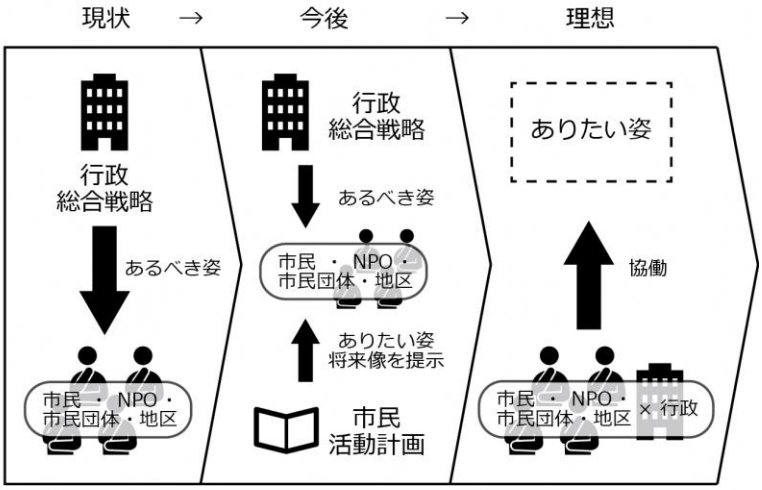
まちづくりを担う関係団体全体で共有する将来像（ありたい姿）とも言え、活動の基本的な方向を示す指針にもなります。（別添コラム集の①参照）

現在は、市が定めた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、総合戦略）に基づいた施策が進められています。一方で、市民活動計画は市民や NPO、地区などが未来を見据えながらボトムアップでつくるものです。市民活動計画は地域に根差した市民目線の未来を描くことにもつながり、ゆくゆくは総合戦略と合わせた鯖江市の「羅針盤」にもなりえるでしょう。

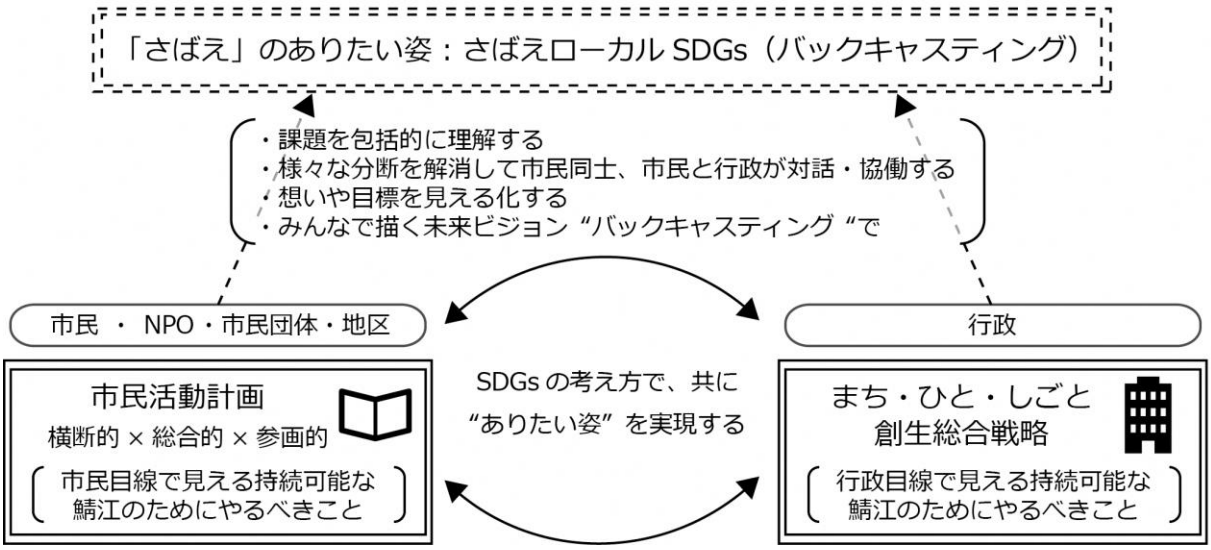
（図 1）市民活動計画のイメージ



（図 2）現状と市民活動計画のこれから



（図 3）現状と市民活動計画のこれから 【理想】のイメージ図



４ 「市民活動計画」の基本理念

市民活動計画には基本理念と三つの柱を掲げました。

【基本理念】

わたし（自分）らしさを発見し、自分らしく生きることができるまち。
あなた（他）らしさを受け入れて、ともに暮らすまち。
みんなが力をもちよって、（今を）いきるよろこびをつくるまちさばえ。

【三つの柱】

＜私を発見＞

人はそれぞれにその人にしかできないものがあります。ですが、まだそれを見つけられていないかもしれません。さばえの暮らしは、自分をみつめることができるかもしれません。

自分らしさを発見し認めることができたなら、その力を発揮しましょう。

自分が必要な存在であることを感じながら生活できることは自己実現です。

例：余暇活動、ボランティア活動、自治活動、自然保護活動

＜他を認め受け入れる＞

自分らしさがあるように、自分以外の人も個性があります。家族、お隣さん、老若男女、障がいがある人。違った立場の人の存在を認めることは自分の価値観（ものさし）を豊かにします。又、支え合うことで絆が生まれます。

他と意見を交わし共動することで、自分の暮らしの問題を解決したり、楽しみを増やし充実した暮らしを送ることができます。

例：子ども食堂運営、高齢者・主婦企業、おもちゃ病院運営

＜みんなと共に生きるまちづくり＞

住民、地区、団体がそれぞれの持ち味を生かして課題に共に取り組めば安心した暮らしに、楽しみを共有すれば明るい暮らしにつながります。その大人の姿を見て将来を担う子どもたちが元気でよろこびのあるさばえを継承してくれます。

互いを認める鯖江市民が、生きる喜びがあるまち鯖江をつくります。

（別添コラム集の②③④参照）

５　市民活動計画づくりに向けて

◆「市民ができること・したことシート」とは？

今回、策定を提案する市民活動計画では、できるだけ多くの皆さんから、具体的な市民活動についての事業計画案を募りたいと考えています。そのために、今後、進めてみたいと考えている市民活動について、「市民でできること・したいことシート」を作成してもらい、計画づくりにつなげてもらいます。

シートには、誰かほかの人や団体がすること、行政がすべきこと等を書くのではなく、あくまで「市民ができること」「自分たちがしたいこと」を書いてもらいます。

これは、市民として今後何ができるか、何をすべきかを「見える化」するための仕組みであり、最終的にはそれがこの市民活動計画の本体部分となっていきます。

「シート」は、その事業計画に関わる人の規模・範囲によって、

１）私編

２）私たち編

３）みんな編

に分かれていますので、一人でも、グループでも、団体でも、自由に提案することができます。

またそれぞれのシートを、さらに「健康・福祉・安全安心・子ども若者・文化産業（歴史・芸術・商業)」といった分野別に整理し、まとめていきます。

◆「シート」の活用方法

市民活動計画に掲載された各シートは、誰でも一覧できるように公開します。

「すばらしい計画なので、いっしょに実現したい」「私もぜひ応援したい」というように事業主旨に賛同した思った方は、誰でも提案者に連絡をとり、活動に参画できるようにします。

また、自らのグループや団体で、新たな事業を実施したいと考えている場合等にも、シートの中で関連する事業計画を立てている人・グループに連絡をとることで、いっしょに事業を立ち上げるといった横の連携を取ることもできます。

いくらすばらしく、鯖江市に必要な事業でも、個人の頭の中にあるだけでは周りの人の賛同を得たり、仲間を増やしたりすることにはつながりません。

まず、皆さんが日頃から考えている事業を「シート」形に書き出してみる。そしてそれを広く公開していくことで、新たな広がり・展開が期待されるものと考えています。

◆「シート」のイメージ

シートのイメージは次ページのとおりです。

市民活動計画　市民（私・私たち・みんな）が、できること・したいことシート

□　私の考える、鯖江のありたい未来（2030 年、2050 年）の姿	□　ありたい未来を実現するための、課題と可能性
文章入力 ステップ①　未来を起点に	・どんな課題がありますか？ 文章入力 ステップ②　課題と可能性の洗い出し ・私がもっている可能性（できること、人的・物的資源、組織など…、何でも） 文章入力

□　私・私たち・みんなが、できること・したいことは、どんなことですか？

・できること・したいこと	・主体：誰が活動しますか？	・対象：誰に、または、どんな課題へのアクションですか？	・目標期限：いつまでに達成したいですか？	・支援者：それを支えてくれる仲間はいますか？
文章入力	文章入力	文章入力	文章入力	文章入力

ステップ③　ありたい未来を実現するためのアクション

□　このアクションを達成するために、必要なアクション・協働・他者に求めること・私が変われることは、ありますか？
文章入力

□　市民の範囲	私編　・　私たち編　・　みんな編	□　活動・事業・プロジェクトの名前
□　直接関係する分野	健康・福祉・安心安全・子ども若者・文化産業（歴史・芸術・商業）	
□　繋がりの深い分野	健康・福祉・安心安全・子ども若者・文化産業（歴史・芸術・商業）	（記載者名　　）

※ローカル SDGs 目標が設定出来るのなら、それを行政・市民の共通の分野としたい。

６　まとめ（これからのこと）

＜各地区への説明＞

本計画を策定していくにあたっては、まず幅広い層のまちづくり関係者に声をかけ、いっしょに計画づくりに参画していただくことが必要です。そのため、市区長会連合会、各地区区長会、関係のまちづくり関係者に対し、市民活動計画の趣旨を説明し、一緒に計画を進めていただけるよう理解を求めていきます。特に組織力と動員力を有している区長会に働きかけることは重要と思われます。

（地区版市民活動計画づくりへの理解の促進）

・各地区区長会

策定へのビジョンづくり

すでに各地区では、防災、福祉、子育て、青少年育成、イベント実施等にかかる各種団体が活発に活動をおこなっています。それらの活動をフォア・キャスティングからバックキャスティング志向に替えていくためには、それらにふさわしいビジョンづくりが不可欠です。（別添コラム集⑤参照）

市区長会連合会や公民館、各種団体が連携し、各地区で「地区版市民活動計画」を作成していくという方針を決定し、市全体として計画的に進めていくことが求められています。

まちづくり人材の確保（市民まちづくり応援団、区長 OB、公務員 OB 等）

区長およびその経験者の中には、豊富な人脈と、技術を含めた学識を持っている方が大勢いらっしゃいます。その方々に、市・地域のまちづくりの進展に、進んで取り組んでもらうことができるような環境づくりが必要です。

また（県・市を含む）公務員、教職員、議員等の退職者の方々も、ぜひ身近なまちづくり活動に参画していただくことで、これまでの貴重な経験・技能を生かしていっていただけると思います。そのためには、鯖江市の「まちづくりサポーター制度」のように、現役時代からボランティア活動・ＮＰＯ活動へ参画する経験を積むことは極めて有効と考えられます。

・行政

行政においても、各地区で「地区版市民活動計画」を作成する流れになった時は、計画づくりの支援や、そのための研修の実施、人材の派遣等をぜひ検討してください。

第７期の市民協働推進会議からの提言にもあるように、鯖江市においても他市の先行事例にあるような「地区担当職員」の配置を考え、「地区版市民活動計画」の作成やまちづくりの組織強化に対する支援を強化していただけるように強く要望します。

・地区公民館の力

鯖江市の地区公民館の市民活動への関りは、県内はもとより全国的でもトップクラスの実績があると思います。社会教育（公民館)の役割は近年の中央教育審議会で答申のあったように自己実現型から地域課題解決型へと変革しようとしています。

この方針は人口減少時代を始めとする今日的課題に社会教育が本格的に取り組もうとする表れで時宜を得た文部科学省の方針と歓迎するものです。現在、市内地区公民館の取り組みも既にその方向にシフトしつつあります。

今般、市民が地域課題などを自助、共助の精神により自らの手で切り開こうとする行動を、社会教育の最前線である地区公民館がさらにフェーズを上げながらサポートして頂けることは、計画づくりや運動の展開に欠かすことの出来ない大きな力であります。教育委員会としてもこれらの社会教育による持続可能なまちづくりを大きな方向性としていただくよう要望します。

＜市民活動＞

市民活動計画に掲載すべき「市民ができることしたいこと・私編～私たち編～みんな編」を公募し、一つひとつを集まった市民で実現していきます。
※市民協働推進会議は、一つの運動体ではないので、計画を立て実践していくためには主体となる組織・団体が必要。

例：市民主役条例推進委員会など＞＞サバヌシ総会への発表

＜若者や子どものまちづくり参画＞

特に将来の鯖江のことを考えると、次世代を担う若い方々に、地元への愛着を持ってもらうことが不可欠です。そのためには、様々な手法でこれまで以上に地域のイベントや行事等に参加してもらうことが必要ですが、それはやみくもに参加を呼びかけることだけでは実現できません。日頃から対話の機会を作り、「準備・計画」の段階からの参画がなければ、若者に「自分事」として捉えてもらい、主体的な参加を得ることは難しいと思われます。この点は、まちづくりを実践する団体の側の意識改革も求められています。

また、小中高の生徒の皆さんには、地元・鯖江の歴史・文化・産業を学べる時間を取り、年に一度は必ず地区の公民館や市民まちづくり応援団などとの交流・意見交換が作れるよう教育委員会等とも協議を行っていくことも必要と思われます。

７　今期の市民協働推進会議をふりかえって

この計画が作られる中で、私たち委員を繋いだのは、『SDGs（ｴｽ ﾃﾞｨｰ ｼﾞｰ ｽﾞ）』でした。

20 代～70 代の幅広い世代、よそ者、専門の分野など、多様な背景や立ち位置から、市民活動について、様々な声があがり、課題やアイデアを知ることが出来ました。課題や多様なテーマに 1 つずつ全員が関わることは難しいですが、「市民が活躍し鯖江が豊かで元気でありつづける事」、「より良い未来を創造する事」、などが共通の目的だと分かりました。

「誰一人取り残さない」、「17 の（関係しあった）ゴール」という『SDGs』の考え方は、「市民ひとりひとりが主役」、「市民協働（産官学民、様々な分野で協力）」という鯖江（地域）で活動する中でも、納得でき共通する思考で、上記の共通の目的の達成にも寄与すると感じました。

今回提言する「市民で創る市民活動計画」は、「市民が活躍し鯖江が豊かで元気でありつづける事」、「より良い未来を創造する事」、という抽象的な『ありたい姿』という未来のイメージから、バックキャスティングにより生まれました。SDGs という価値観・世界の情勢・今まで通りではいけない、ということに市民・行政で取り組むためのアクションと考えています。

そして、市民の私や私たち、みんなが主役で起点となり作られる計画です。より良い未来にむけ、私を見つめ対話し、自分の想いを大切に考えることが、他の人・こと・想いを受け止め、考えることに繋がり、更に、その広がりにより「包摂的に地域に参画する、主体性をもった市民活動・市民協働」の推進、を目指すことができます。

今期の提言では、至らない事も多いため、ひきつづき市民協働推進会議が中心となり継続した活動にしていきます。理想的には、「市民活動計画」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の両輪で、市民・行政の協働により『「さばえ」のありたい姿』を描いていければ…という想いを持っています。次期では、実際に、市民や地域、団体等に協力いただき「計画」を集めていこうと考えております。市の方では、計画集めと今後の運営・運用体制について、ご助言、協働いただきたいです。

また、提言とは別に、委員の個人の想い・地域との繋がり・活動の理由などを、コラムという形でまとめました。今回の提言を作成した市民の存在が認識できるかと思います。提言と共にコラムも読んで頂き、根底で繋がっている市民の価値観や想いが伝われば幸いです。

「コラム１」

地区住民よるまちづくり計画の策定　　森本　茂

私たちの街北中山地区では、市民の手で将来どのような地区につくりあげていくのかを「第 1 次北中山まちづくり計画」（平成 22 年度）として纏めました。そして昨年度、令和 2 年度、改訂版の第 3 次北中山まちづくり計画を策定しました。

計画では、私たち北中山地区の市民が自らの手でつくりあげていく事と、鯖江市や福井県など行政に要請して目標を達成できるものなど、輻輳していますが、地区市民がこの計画情報を共有しながら、自分たちで出来ることは自分たちで積極的に取組みながら、快適で、住んでいて良かったと思える北中山の地区づくりに、みんなが協力して取組み、誇りの持てる地域にしようとするものです。

また、鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略を上位計画とし、行政と市民が協働して自助・共助の精神で持続可能な北中山づくりを目指しています。

計画の策定には多くの市民が参加してグループワークにより意見を出し合いながら市民参画を強く意識しました。計画への参画はこれからの活動に大きな原動力になります。

以下を参考にしてください。

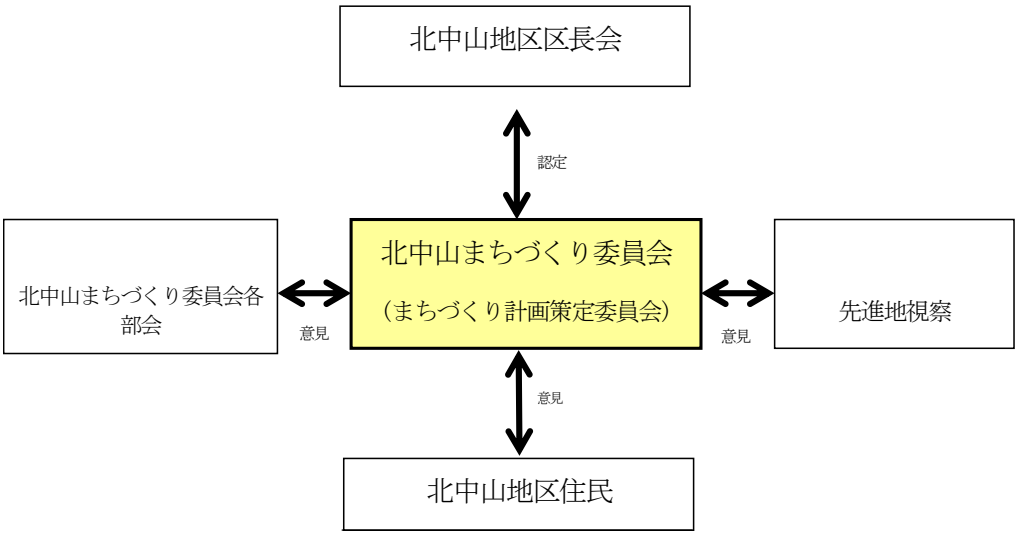
別添・コラム集

計画改訂の経過

北中山地区を、更に住み心地の良い、魅力ある地域とするための将来計画「第 3 次北中山まちづくり計画」を策定するに当たり、策定委員会を組織し審議検討した。

年　月	協 議 事 項	摘　　要
R02/01/31	第 1 回北中山まちづくり計画策定委員会	経過説明・委員長互選
R02/02/28	第 2 回北中山まちづくり計画策定委員会	第 2 次計画の評価
R02/06/23	先進地視察 ・シバザクラの里づくり活動	大野市乾側公民館
R02/06/24	同　上 ・神中町ご近所福祉ネットワーク活動	鯖江市神明公民館
R02/06/24	同　上 ・社南地区自主防災会協議会活動	福井市社南公民館
R02/07/10	第 3 回北中山まちづくり計画策定委員会	ワークショップ
R02/08/07	第 4 回北中山まちづくり計画策定委員会	ワークショップ
R02/09/16	第 5 回北中山まちづくり計画策定委員会	ワークショップ
R02/10/09	各部会長による調整会議	計画案の調整
R02/10/23	同　上	同　上
R02/11/28	同　上	素案の協議
R02/12/10	第 6 回北中山まちづくり計画策定委員会	全体協議
R03/01/14	北中山地区区長会との協議	関係者
R03/02/15	第 7 回北中山まちづくり計画策定委員会	全体協議

5-2、計画策定の組織体制



第 3 次北中山まちづくり計画の QR コードです。

「コラム２」

「おせっかい」の軌跡と奇跡・・・　　上嶋　睦美

「おせっかい」は、平成２９年２月発足。もうすぐ５年目になります。ただいま、会員数は３５名、実働２１名います。
何年か前から、サンドーム福井でのライブ時に見かけるようになった鯖江駅の大混雑・・・夜、雨の中で電車を待つ姿に、とても心苦しくなりました。
平成 28 年、一人で駅前の様子を見に行き、お孫さんと二人で電車待ちのお客様を福井鉄道まで車で案内。冷たい雨が降ってかわいそうに思い何回か往復しました。その時、こんなので良いのかな？と思ったのです。
たまたま「大人版活性化プランコンテスト」という街コンに誘われ、お題を出しました。
沢山の方に私の思いを聞いていただき、少しだけやりたいことが見えてきました。

次のライブイベントの時です。一人で鯖江駅に立って案内していたら、次々と市民が見学に来てくださりそのまま参加し、会が出来ました。男の方は「前からやりたかったけど、男だから」とのこと。女性と一緒に活動することで怪しまれなくて、しかも若い方々と話しができると喜んでいます。メンバーがだんだん若くなっているみたいです。
最初はサンドーム福井までの道案内。食事場所の紹介。そこでコインロッカーの少ない事を知り荷物預かりが始まりました。毎回、いろいろな事を相談されるようになり、みんなで調べ共有しながらバージョンアップしています。駅前のめがねオブジェの前の記念撮影。コミバスの時刻表。鯖江市簡単地図。雪道の除雪。などなど。

夜、鯖江駅前で皆様のお見送りをしていた時のことです。
駅にお客様がほとんどいなくなり解散しょうとした時、若い娘が歩いて帰って来ました。どうして今まで？どこ行っていたか聞くと、暗くて道に迷ったと。私たちはいつも歩いているので当然の事でも、都会から来た人には暗く怖い道に見えるのです。どうしたらよいか？おせっ会はただのボランティアの集まりです。お金もないし明かりを付ける力もない・・・そこで思いついたのが、「ソーラー」です。

ここで、私のお節介の原点をお話しします。
私は韓国が大好きで一人で韓国の旅をします。そこでの体験、空港で切符を買おうと並んでいた時、おじさんが声をかけて来ました。「どこから来たの？外はマイナス 13 度だよ。マフラーして、ホッカイロ持って、顔覆って。寒いから気をつけて」と。
電車に乗るとシルバーシートしか空いていなくて大きなスーツケースが邪魔なのでシルバーシートに座りました。おばあさんが乗り込んで来られたので席を立つと「あなたはお客様。座っていなさい。」降りる駅を確認するため地図を広げると「どこまで行くの？私は老

眼で見えないからと立っていた女性にきちんと教えてあげなさい。」と言って去っていきました。
　地下鉄で重いスーツケースを持って階段を上っていると若い男の子が上まで運んでくださり、改札がうまく通れないと駅員さんを呼んでくださり、終電がなくなり困っているとまたまた若い男の子がタクシーを捕まえて、行先とボッたくらないように！！」と。
　いつもいつも困っているとさりげなく助けてくださる韓国の方たちに感動。韓国が大好きになり、また行きたくなるのです。何気ない優しい行動を私もやりたい！！と思いました。
　ソーラーは韓国でお花の形のイルミネーションが奇麗で、鯖江でできたらなぁと思っていたのでここでやろうと。

　おせっ会メンバーで夜のサンドーム福井から鯖江駅まで歩きどこに何本設置とか話しながら。本数を決め、設置許可を町内と市、県土木課に依頼。
　今では皆さんの憩いに。写真撮影もしていただいています。
　ツイッターでも来場者の方が来られるまでに情報を流し、雪の時は道を除雪。
　帰りにいただいた皆さんの声や、いただいたあいさつなども UP します。
　「また鯖江に来たいです！」「今度は観光で！」「鯖江の方々の優しさに触れられて嬉しかった」・・・
　私たちは一般市民の集まりです。暑くても寒くても楽しんでおもてなしの活動をしています。「鯖江最高～」「鯖江大好き」「ありがとう」の言葉で、辛い事はちゃらになります。私たちの前で泣きながらお礼を言ってくださるんです。

　お客様に喜んでいただきたくて始めた事が、皆を巻き込んで・・・
　私たちの活動で踏切の所に電灯が付き、しかもすべてブルーライトとなり、道路がとても明るくなりました。駅員さんと連携も取り、情報交換で乗り遅れる人もなくなりました。たまにいる子は安いホテルや民宿に連絡したりしています。皆さんが鯖江で素敵な思い出をいっぱい作って欲しくて。
　他の活動では、つつじ祭りのシャトルバスのバスガイド。
　今年はライブがないので、ＪＲ鯖江駅からサンドーム福井の道の清掃活動をしています。
　早くコロナウイルスが終息して、皆様のおもてなしがしたいです。

　会員さんは一般市民、現役市役所職員、市役所ＯＢ、つい最近は牧野前市長さんも会員となってくれました。誰も強制で参加していません。自分が誰かのために何かしたいという思いだけ。
　聞かれる前にこちらから声をかけています。もちろんスルーする方も沢山いらっしゃいます。
　今では鯖江駅から出てくる人を見るだけでだいたい困りごとが解ります。私たちの案内

が役にたつだけでメンバーは幸せなのです。入会金払って、団体の服装も自腹です。でも、お節介が楽しいのです。

　それが鯖江のＰＲに繋がっていったのは、後から分かりました。

　まさかこんなになるなんて、なんだか嬉しくなりました。

　おせっ会メンバーには恥ずかしがりの方もいます。上手く話せない方も。地図を作ったり、チラシを作ったり。明かり付けのみの方や、掃除のみの方もいらっしゃいます。できる時間にできる事を皆でワイワイと。自分がやりたくて始めたのに、いつの間にか人の為になっている。生きがいなんです。皆キラキラしています。いくつになってもキラキラ生きることができる事、探してみてはいかがでしょうか。

以上で私のお話は終わりとします。

「コラム３」

「よそ者」からみた鯖江とは？【鯖江は居場所が多いまち。】　　根本　楓

私は福井県出身で、県外に出たのち地元ではなく鯖江に移住しました。

2019 年に移住した鯖江の印象は「自己実現している人が多い＝居場所が多い」ということ。

【“居場所が多い“とは】

中小企業や職人さんが多いということもあるのでしょうか。「自分がしたいと思ったことを実現している人」が多い印象があります。まちづくりの団体や仲間内での集まり、ボランティア、ちょこっとしたお店をやってみる人など…。やりたいな～と思っていることを実際にやっているし、仕事や生活以外での活躍の幅が広い。さらに、年齢が若年層から高齢の方までいらっしゃる。どの世代でも生き生きとしている。

何かをしようとした時に、自分一人でもやる！と覚悟を決めて動ける人は少ないです。

それぞれの世代で、それぞれの思う自己実現をしている場が多いということはつまり、そんな一人では動けない人が「何かしたいな」と思ったときに選べる“居場所が多い”ことにつながると感じています。実際私も、20～30 代が集まる移住者のコミュニティやイベント、仕事と関連のある民間団体、フリーランスの先輩たち、この市民活動計画をつくっている市民協働推進会議などへのお誘い…と、移住して割と早い段階からいろんな居場所ができたので、割とすぐに地域に馴染めました。

「やりたい」を「できっこない」で押しつぶしたり突き放したりするのではなく、「やってみね」「一緒にやるわ」と後押しする土壌もあるように思います。それはこの土地に住む先輩方が、そういう風に実現を積み重ねてきたからこその土壌です。

程よいサイズと人口という点も鯖江の良さです。

以前居た大阪市は人口約 270 万人。「やりたいこと」が見つかっても先駆者が居て、その道を進むロードマップがもう既にある程度定まっているのが普通でした。資格を取って経験を積んで、その上に自分らしさを見出して初めて完成するような。人が多すぎて匿名性が高い分、埋没しちゃうんですね。

人口 7 万人弱の鯖江では、何かをやれば結構目立つ。「●● をやってる誰々さん」って、屋号みたいになる。(笑)そして今の時代はそういう「●● やってる誰々さん」である自分に与えられた居場所というものへのニーズが高い時代。だから鯖江だけにとどまらず、いろんな地方自治体への関心も広がってきているように思います。

【課題は…】

これも土地柄なのでしょうか？自己実現のための動きが活発とは感じますが、それぞれ

に活動を始めるからそれぞれでグループができちゃって、てんでんばらばらになっているとも感じます。
組織が小さいと小回りが利いて前述した居場所の選択肢も多くなります。そんな利点があれば、“グループ同士のコミュニケーションがない”という欠点も。
　グループ同士のコミュニケーションがないことは、あらゆる機会の損失をしています。「このグループとこのグループ、だいたい同じ目標を掲げているから協力すればすごい躍進できるはずなのに」とたびたび感じました。
　違うグループがひとまとまりになる必要はなくて、接点さえあれば良いのです。それこそ、“市民協働推進”です。

最近 SDGｓが盛んに叫ばれ始めていますが、私自身いろいろと勉強する中で、SDGｓの目標(Goals)を以てグループの存在意義とゴールを見える化することは、市民協働に今いちばん近い道のように思います。
「あるグループはこの目標に対してこういうゴールを目指して活動している。また別のグループは別のゴールがあって動いている。この２つのグループのゴールは近いものがあって、それに対するプロセスにおいて人的資源やスキルを一時共有すれば、お互いのゴールに躍進的に近づける。」
これが明確化されていれば客観的に見ても分かりやすくなり、例えば市民協働を促す役割である市役所が「こういう活動をしていてこういう強み・スキルを持っているグループがあるので、今回の案件についてはそちらと協力してはどうですか。」といったことが言えるようになります。市役所だけじゃなく、グループ内部からもそういった提案が上がり、どんどん協働が広がっていくでしょう。

鯖江らしいまちづくりは、市民一人ひとりからにじみ出るもの。私もそんな鯖江市民として、出来る限りこれからも住み続けいろんな活動をし続けたいと思っています。その活動の中で、選択肢(＝居場所)が多くてかつお互いに相乗効果を生むような、鯖江らしい市民協働があってほしいです。

「コラム４」

「よそ者」から「さばえ人」に　“若者からの視点”　　石井 瑞紀

私は、2019 年 4 月に鯖江市に移住しました。
兵庫県西宮市出身の私が鯖江に初めて来たのは、9 年前、大学 1 年生の時に河和田アートキャンプに参加したことがきっかけでした。学生時代に河和田を訪れ、地元の方々と様々な活動をする中で驚いたことは、河和田地区で暮らす人々がお互いのことをよく知っている事、しっかりと住民同士が繋がっているという事でした。私の実家はマンションで、ご近所さんとは軽い挨拶程度の関係だったので、河和田が持つ住民同士の繋がりは、私にとって新しい感覚でありとても素敵な環境があるまちだと感じていました。
地元の西宮は、鯖江と比べると、公共交通機関や買い物をする場所が充実していたり、大阪や神戸の都市にもすぐに出かけることができる。便利で暮らしやすいと感じますが、人口も多く、鯖江ほどご近所さんや多世代の人との繋がりは無く、鯖江に来てからの人と人との交流や、ご近所さんとの繋がりは、地元にいた時よりもかなり充実していると感じています。
鯖江で暮らしてきた皆さんが長年培ってきた、住民同士の繋がりは、移住してきた私にとって、とても羨ましいものです。
市民協働推進会議に参加させていただき、初めは「鯖江に来て間もない私が呼ばれていいの！？」と不安に思っていたのですが、会議を重ねる度に、鯖江の様々な場所で活動する委員のみなさんが奮闘されている姿や、熱い思いを知ることができました。鯖江市内の動きが少しずつですが、広く見えてきたように思えます。一方で、まだまだ取り上げられていない活動だったり私の知らないおもしろい活動が市内にはたくさんあるんだろうなとも感じています。この市民活動計画は、住民同士のコミュニケーションがあってこそ、深まっていくのではないかなと思っています。ご近所さんと些細なことでも困っていることを相談できたり、分からないことを気軽に聞けるような関係づくりができていることや、住民同士でちょっとした会話が気兼ねなくできることが、地域の支えあいに繋がったり、新しい動きの誕生に繋がっていくような気がしています。
私は「移住者」とよく呼ばれるのですが、いろんな方が興味津々に様々な質問をしてくださいます。「どこから来たの？」「何してるの？」「休みの日どこいくの？」「趣味は？」などなど。はじめの頃は「すごいたくさんの質問が飛んでくるぞ！？」とビクビクしてしまいましたが、素直に質問に答えることで、お互いのことを知ることに繋がったり、鯖江のことを知ることができたり。新たな繋がりができたり、様々な活動に参加することになったり、2 年前に来た時よりも自分自身の活動する環境が広がっています。
これから少子高齢化がすすみ人口減少がどんどん進んでいきますが、お隣さん、ご近所さんから広がる多世代とのコミュニケーションで大小様々なおもしろい活動がうまれていくといいなと思います。

「コラム５」

「未来のデザインの仕方」　　楳原　秀典

この計画が作られる中で、私たち委員を繋いだのは、『SDGs（ｴｽ ﾃﾞｨｰ ｼﾞｰ ｽﾞ）』でした。

20 代～70 代の幅広い世代、よそ者、専門の分野など、多様な背景や立ち位置から、市民活動について、様々な声があがり、課題やアイデアを知ることが出来ました。課題や多様なテーマに１つずつ全員が関わることは難しいですが、市民が活躍し鯖江が豊かで元気でありつづける事、より良い未来を創造する事、などが共通の目的だと分かりました。

「誰一人取り残さない」、「17 の（関係しあった）ゴール」という『SDGs』の考え方は、「市民ひとりひとりが主役」、「市民協働（産官学民、様々な分野で協力）」という鯖江（地域）で活動する中でも、納得でき共通する思考で、上記の共通の目的の達成にも寄与すると感じました。

今回提言する「市民で創る市民活動計画」は、市民の私や私たち、みんなが主役で起点となり作られる計画です。より良い未来にむけ、私を見つめ対話し、自分の想いを大切に考えることが、他の人・こと・想いを受け止め、考えることに繋がると考えました。更に、その広がりにより「包摂的に地域に参画する、主体性をもった市民活動」の推進を目指すことができます。

私たちの前には、たくさんの課題があり、解決困難な複雑に絡まった状況があります。より良い未来のために、私と地域が繋がり、そして世界も繋がっていることを意識して、今何をする必要があるのか、どの様に地域で『SDGs』を活用できるか、紹介したいと思います。

１　ＳＤＧｓの基礎知識

①　途上国から先進国まで全世界、全地域共通の目標
②　産官学民、全セクター、市民一人ひとりが主役
③　誰一人取り残さない
④　３の領域（経済・環境・社会）、１７のゴール、１６９のターゲット
⑤　２０３０年が目標の期限

２　目標達成のためのＳＤＧｓアプローチ

①　イノベーションとスリム化
②　包括性とパートナーシップ（住民一人ひとりの最適と地域みんなの最適を両立する）
③　バックキャスティング：未来から考える
　　※フォアキャスティング：現状から始める

３　地域における『ＳＤＧｓ』とは

住民・市民、事業者、行政職員、NPO など、地域内外の様々なステークホルダーが自分の立場や組織、まちづくりやものづくりなどの領域を超えて、ともに幸せな地域の未来の姿を描き、その実現に向けて、みんなで協働して取り組むチャレンジである。

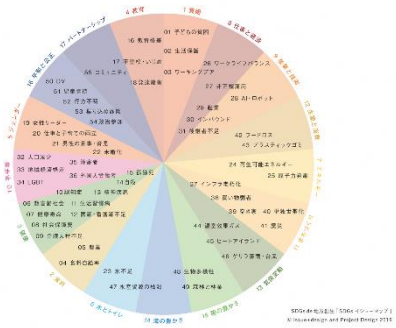
・地域に存在する様々な分断を解消することが、幸せな地域の未来の実現を加速させます。
　【官民の分断、縦割り組織の、現在と未来の、地域間の、世代の、ジェンダーの】

４　地域におけて『ＳＤＧｓ（誰一人取り残さない』の考え方を、活用する。

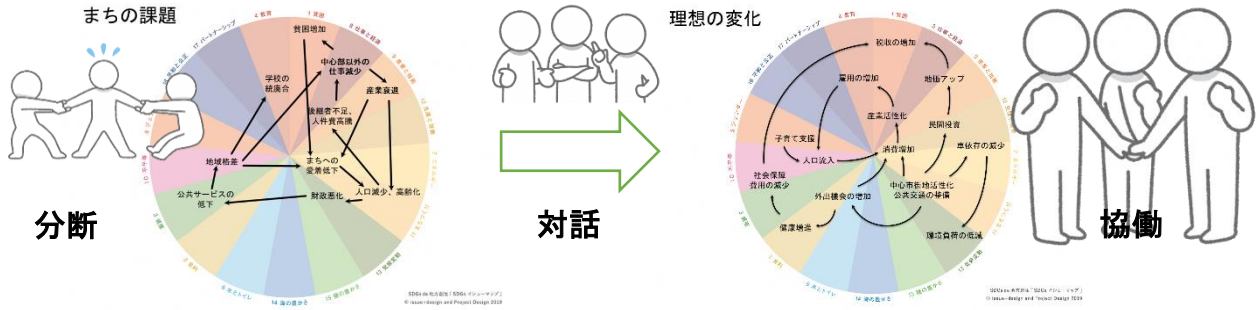
・人口減少、高齢化、地場産業の衰退…根底でつながり　影響しあっている
　⇒「地域が直面している課題を**包括的に理解**する」

SDGs の 17 のゴールを再配置し並べ替え、世界で起きている問題を細かく再配置

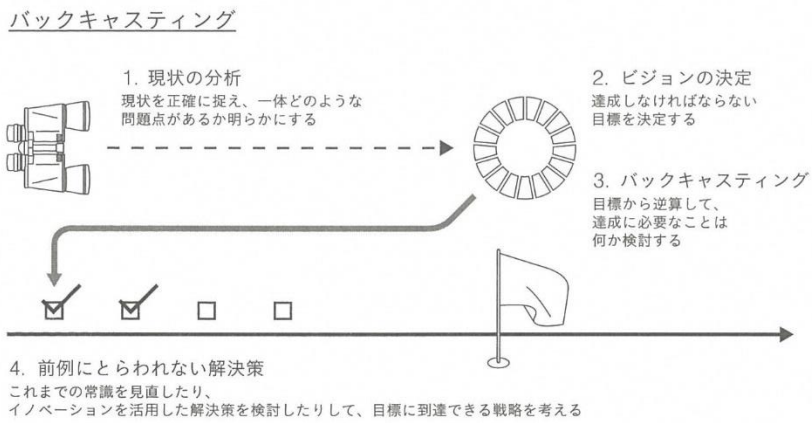
SDGs イシューマップ



・行政と市民、企業などが協働して諸課題に立ち向かう
　⇒「分断から**対話・協働**へ」



・市民がしたいこと・できること（私・私たち・みんな）
　市民活動計画の作成
　⇒「想いや目標の**見える化**」
　⇒「みんなで描く、
　　あるべき**未来ビジョン**」
　　：**バックキャスティング**



・わたし（自分）らしさを発見し、自分らしく生きることができるまち。
　あなた（他）らしさを受け入れて、ともに暮らすまち。
　みんなが力をもちよって、（今を）いきるよろこびをつくるまちさばえ。
　⇒「地域における、だれひとり取り残さない、の実現」
　⇒「私の想いの実現と、地域課題の解決（**チャレンジ**）」
　⇒「まち・ひと・しごとは、**つながっている**」
　⇒「私の意識がまちの意識を変容させ、高まりあう」：**リーダーシップ**

5　最後に

地域で『SDGs』を活用できるか？概要を紹介しましたいかがでしょうか。

・「ともに幸せな地域の未来の姿を描く」　・「地域に存在する様々な分断を解消する」
・「課題を包括的に理解する」　・「分断から対話・協働へ」　・「想いや目標の見える化」
・「みんなで描く、あるべき未来ビジョン　：バックキャスティング」
・「地域における、だれひとり取り残さない、の実現」
・「私の想いの実現と、地域課題の解決（チャレンジ）」
・「まち・ひと・しごとは、つながっている」
・「私の意識がまちの意識を変容させ、高まりあう　：リーダーシップ」　……

とはいえ、地域においてもこれらを実践するには、少しコツがいるというか、今までとは違う考え方や、自分との向き合い方、対話が効果的で、必要になると思います。このＳＤＧｓの考え方を疑似的に「体感」する方法があります。

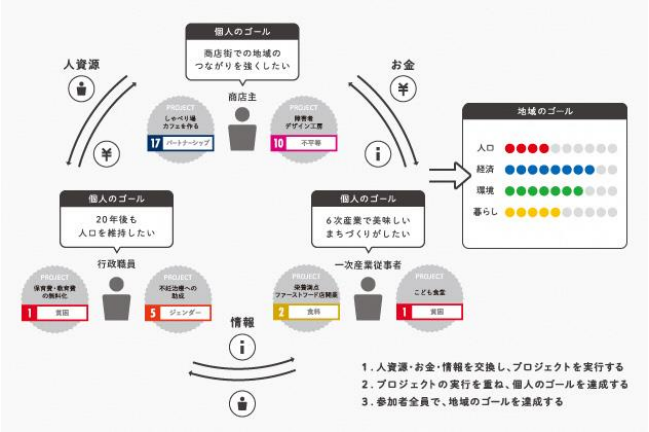
6　実践型シミュレーションゲーム「SDGs de 地方創生ゲーム」

ＳＤＧｓの考え方を、地域に寄り添った形で捉え直してみようというのが、実践型シミュレーションゲーム「SDGs de 地方創生ゲーム」です。ある仮想の地域を舞台として、市民や行政など様々な立場の人たちが未来に向けたまちづくりを展開していく。これを擬似的に「体感」することで、様々な気づき、そしてつながる仲間を手にするきっかけにもなります。今期の委員ともこのゲームを行い、地方創生・地域における SDGs・2030 年までの道のり・行政と市民の協働など、疑似体験し、

学びや気づきを、提言に活かしています。

私は、このゲームのファシリテーターで、鯖江市内のリクエストがあれば「SDGs de 地方創生ゲーム」を活用したワークショップの開催をご提案いたします。宣伝の様になってしましましたが、私が起点となって「地域においてできる事・やりたい事」になります。『SDGs の紹介と活用方法』について、鯖江市や市民のみなさまと協働できればと思っています。ぜひこちらを体験していただければ嬉しいです。

SDGs de 地方創生ゲーム
https://sdgslocal.jp/



【こんな方にオススメ】
・SDGs というワードが気になっている
・自治体、ＮＰＯ、まちづくり活動に SDGs を取り入れたい
・まちづくりがしたい、している
・地域のプレーヤーの一体感や繋がりを創りたい
・総合計画、地域づくり協議会、まちづくりの例会に活用したい

ゲームの依頼、相談は、
（特）エコプラザさばえ　楳原（ｳﾒﾊﾗ）℡　0778-52-0050　メール econet@ecoplaza-sabae.jp